

The Role of DNA Repair Glycosylase OGG1 in Intrahepatic Cholangiocarcinoma

坂田, 一仁

<https://hdl.handle.net/2324/4495960>

出版情報 : Kyushu University, 2021, 博士 (医学), 課程博士

バージョン :

権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (2)



氏 名：坂田 一仁

論文名： The Role of DNA Repair Glycosylase OGG1 in Intrahepatic Cholangiocarcinoma
(肝内胆管癌における DNA グルコシラーゼ OGG1 の役割)

区分：甲

論文内容の要旨

様々な癌腫における酸化性ストレスの影響がこれまで報告されてきたが、肝内胆管癌 (ICC) においてその影響は未だ不明瞭である。この研究の目的は、酸化 DNA 損傷とその修復酵素が ICC にどのような影響を与えるか明らかにすることである。ICC 患者 63 名の切除標本にて 8-hydroxydeoxyguanosine (8-OHdG) と 8-oxoguanine DNA glycosylase (OGG1) を免疫組織化学染色にて評価した。OGG1 の低発現は、腫瘍の深達度 T4 ($P = 0.04$)、静脈浸潤 ($p = 0.0005$)、リンパ管浸潤 ($p = 0.03$)、神経周囲浸潤 ($p = 0.03$) との関連を認めた。また、OGG1 高発現群と比較して、OGG1 低発現群は予後不良であった (全生存率: $p = 0.04$, 無再発生存率: $p = 0.02$)。OGG1 とは異なり、8-OHdG の発現は、予後と関連を認めなかった。以上より、酸化 DNA 損傷と、DNA 修復酵素である OGG1 は、ICC の進展および予後に関連する可能性が示唆された。